滋賀でサステナブル社会をめざす市民情報交流誌
Collaboration Paper for Voluntary Network in Ohmi

おうみネット

淡海
2020
113
Winter

発行日／2020年12月1日
発行所／公益財団法人 淡海文化振興財団

CONTENTS

巻頭エッセイ「市民活動をサポート！」 P1
「四方よし」の実践によるSDGs
株式会社日吉 総務部総務課
赤塚 愛さん

おうみ未来塾リレーエッセイ P2
若者だからこそ、つながりの輪をもっと広げたい
おうみ未来塾第15期生
「甲賀ムラづくりLABO」代表
山本 尚路さん

特集●「寄付を、考えてみる」 P2~5
インタビュー
山元　圭太さん
合同会社喜代七 代表
株式会社Seventh Generation Project 取締役CFO・CSO
NPO法人日本ファンドレイジング協会 理事・認定ファンドレイザー
島根県雲南市 地方創生アドバイザー

市民と企業のChangeにチャレンジ！ P6~7
□西の湖あそび隊
□社会福祉法人やまなみ会・やまなみ工房
□一般社団法人ママパスポートコミュニティ
□Biwako Backroads

Changeにチャレンジ！応援BOX P8

巻頭エッセイ●市民活動をサポート！

「四方よし」の実践によるSDGs

日吉は1955年の創業以来65年間、国内外の環境問題解決に科学的に取り組んできました。経営理念は「社会立社・技術立社」。会社は社会に貢献しなければ存続できない。またそれを支える技術をもって初めて社会に貢献できる。まさしくその実践が成長の歴史に顕れています。

また、「環境問題に国境なし」を唱え、1989年に国際貢献活動に関わり始め、36カ国1000名以上の海外研修生の受入れ、社員の専門家派遣を行ってきました。さらに地域貢献として地元小学生対象の環境教育の実績も高く評価され、2002年には第一回渋沢栄一賞を受賞しました。一方、災害の復興支援では、廃棄物収集や飲料水給水、水道消毒液提供で被災地のライフライン確保に尽力、昨今のコロナ禍においては事業を止めることなく人々の生活環境の維持に努めています。

今後も近江商人の理念「三方よし」を受け継ぐとともに、SDGsの観点から世界規模で持続可能な社会環境の実現を目指し、次世代の人材育成に注力した「次世代よし」を加えた「四方よし」の実践を行ってまいります。

株式会社日吉 総務部総務課
赤塚　愛さん

環境ごみ学習の様子。地域の環境教育にも積極的に取り組み、高く評価されています

Ohmi Network Center
淡海ネットワークセンター
公益財団法人 淡海文化振興財団

特集
未来に向かってなげる、つづける。

「寄付を、考えてみる」

寄付ってなんでしょう？
寄付を受けたり、寄付をしたり、最近はクラウドファンディングなど新しい寄付の形も出てきました。様々な価値観が変わろうとしているいま、もう一度寄付についてみなさんと一緒に考えてみたいと、3回に渡る連載を企画しました。
第一回目の今号は、寄付の背景や現在の状況などについて、日本ファンドレイジング協会理事で認定ファンドレイザーでもある山元圭太さんにインタビューをさせていただきました。

おうみ未来塾 リレーエッセイ

若者だからこそ。つながりの輪をもっと広げたい

私の住んでいる集落の高齢化率は46.3%であり、まもなく限界集落を迎えようとしています。私は、3年前に大阪での仕事を辞め、家業の造園業を継ごうと決めました。そして同時期に「自分の地域の事も真剣に考えないとな」と思いました。これが、おうみ未来塾の入塾を決めた動機です。

おうみ未来塾での気づきや学びは沢山ありましたが、一番は仲間のつながりができたことです。地域の事を一緒に考える仲間がいなかった自分にとって、仲間の存在はとても大きかったです。現在は、未来塾の延長線上で「磯尾」という私の生まれた集落を活性化する活動を15期生のメンバーと続けています。今年は新型コロナの影響もあり、活動が難しい状態でしたが、何とか集落に配布する瓦版をみんなで仕上げることができました。

また、今年から滋賀県立大学の「近江環人地域再生学座」を受講し始めました。近江環人では、より専門的に最先端の情報と共に地域の関わり方を学んでいます。ここでも大学院生や同じ社会人枠の生徒の方々とつながりをつくることができ、沢山の新しいアイディアに刺激を頂いています。

これから、私に何ができるか分かりませんが、まずは活動を継続していき、「ここで、ともに、無事に」生活できる明るい集落づくりができればと思っています。

おうみ未来塾第15期生
山本 尚路
・「甲賀ムラづくりLABO」代表
・「甲賀まるっとラジオ」スタッフ

■まず、日本人の寄付意識についてどう思われますか。

まず、事実として、欧米に比べて人口一人当たりの寄付市場は小さいです。ただ、日本に寄付文化はないのか、と言われれば、それはあります。例えば、近江八幡って昔は、商人や街の人たちの寄進で街の整備が進められてきたし、神社仏閣だって地域の寄付でできている。だから、日本に寄付文化はあります。ただ、現在は特に個人の寄付市場が欧米と比べると小さいだけ。それが実態ですね。

■なるほど、昔から寄付文化はある。しかし、現在の私たちの生活には寄付文化が浸透していないように感じるのですが。

日本は行政が強く、しっかりしているから、市民が頑張らなくても社会インフラが用意されてる。明治維新以降、中央集権国家になって、税金を納めることで公共サービス、自治を国、県、市町村に委託してきた。そして十分な右肩上がりの経済と人口の増加で、ここに道路や橋がほしいな、と要求すれば国や県がつくってくれていたんですね。

反対に、なぜアメリカに寄付市場があるかといえば、ひとつは宗教上の理由ですが、まず国土が広く目が届かないので公共サービスは薄くなる。そして、国としての成り立ちが基本的に開拓の国なので、国に任せるより自分たちのことは自分たちでする、と考えていますから、寄付市場がうまれる。しかしながら、日本は公共サービスのベースは、「お上に任せる」です。寄付ではなく、税金を使ってお上がするものでしょって。

■だから、寄付で世の中を良くしようという発想がないわけですね。

そうなんです。自分たちでやる必要がなくて、それは役所の仕事でしょって。それで成り立ってきたわけです。

■しかし、3・11の東日本大震災を経験したあたりから、行政だけに頼っていられないぞと実感し、自分たちのできることは何だろうと考えるようになったと思うのですが。

まず、日本がここまで成長した背景には大きな要因が2つあります。それは、右肩上がりの経済成長と右肩上がりの人口増。この2つがエンジンとなって成長してきました。しかし、1995年の阪神・淡路大震災、2001年の9・11同時多発テロ、2008年のリーマン・ショック、2011年の3・11東日本大震災、そして現在の新型コロナウイルスの感染拡大という歴史的な出来事が、多くの人々、特に若い人たちの世界観を揺るがし、このままでは、社会システムも、経済も、政治も、今までのやり方では立ち行かないだろうと、気づき始めたわけです。

日本でエンジンとなっていた経済システムと人口増も、もうとっくに限界がきているのに目を背けてきた。しかしながら、もう背けられなくなったんですね。だから3・11東日本大震災だけではなく、この一連の流れが、私たちの意識の変化を生むきっかけとなってきたんです。

■なるほど。これらの体験を通して変化が表れてきたんですね。

ええ、そうです。寄付というところでみれば一旦下がります。不安が増すと支出を抑えるので一旦下がるけど、その後は以前より増えます。それは、新しい希望がほしくなるからで、その希望に基づいて新しい寄付の形、サービス、動きが出てくるからなんですね。

偶然ですけどクラウドファンディングが出てきたのは東日本大震災前後です。この震災で、これまでの社会モデルや、それに伴った幸せの形は信用できないと気づいて、みんなで助け合うとか、みんなで応援しようとか、そしてちゃんと表明すれば、共感してくれることがわかった。だから、クラウドファンディングのようなツールもある、それを使っていこうと、変わってきました。

そして、このコロナ禍で法人を中心に寄付が短期的に抑えられたと聞きますが、新しい資金の流れが少しずつ出てきていますから、そういうものを使って、また伸びていくと思います。

■ただ、意識変化が出てきても、なかなか寄付が集まらないというお話も聞きますが…

うーん、寄付市場や寄付者というよりは、もっと寄付をお預かりするほうが工夫すべき点が多いかなと思います。

■参考になりそうですね！もう少し具体的にアドバイスをいただけますか。

山元　圭太さんプロフィール

合同会社喜代七 代表／株式会社Seventh Generation Project 取締役CFO・CSO／NPO法人日本ファンドレイジング協会理事・認定ファンドレイザー／島根県雲南市 地方創生アドバイザー

1982年滋賀県草津市生まれ　同志社大学商学部卒。経営コンサルティングファームで経営コンサルタントとして5年、NPO法人かものはしプロジェクトでファンドレイジング担当ディレクターとし、5年半のキャリアを経て、非営利組織コンサルタントとして独立。2018年3月に故郷の滋賀県草津市で合同会社喜代七を創業。2018年12月に株式会社Seventh Generation Projectを創業。

まず、ちゃんとお願いしていないと思うんです。自分たちが何をしたくて、それにはどれぐらい資金が必要で、そしてどんな形で仲間になってほしいか、そこをきちんと伝えること。そのうえで相手が価値を感じる形で提案できているか。相手のことを思って努力をしているかですね。今はSNSで気軽に発信できるし、探せばツールも技術も無償提供でもあるし、10年前じゃ考えられないです。おおいに利用して、行動していただければと思います。

あと、ツールもそろっているのに情報がうまくかみ合っていない感じもするのですが。

例えば、市民活動のおまとめサイトみたいなのがありますよね。で、それぞれ環境問題や社会支援などカテゴリーが分かれ、選びやすくはなっています。けれども、そこをピンポイントに見にくる人って、よほど関心がある人でしかないんです。だから、もっとライトな入口をつくるべきじゃないかと思います。

きちんと自分たちのことを伝えることも大事ですが、気づいたらソーシャルとか、振り返ったらSDGsだったみたいなことを併せて考えていかないと、なかなか広くは伝わらないと思います。人ってね、おもしろそうとか、ワクワクするとか、感情のきっかけが大きいんです。そこから入ってもらうようにするということも考えられます。

そうですね、ライトな入口で、かつ楽しそうと思えると、入っていきたくなります。

寄付に特化した某テレビ番組とかチャリティコンサートとか以前からあるじゃないですか。あれって、寄付をしたいからあの番組を見てるんじゃないし、チャリティコンサートも、チャリティがメインじゃなくて、コンサートに参加したい理由だけですよね。でも、実際は大きなお金が動いて寄付につながっている。みんな寄付をしている意識はないのにね。

あと、今だったら、あるカフェに美味しいランチを食べに行くとする。そこのカフェの食材は、実は地元のこだわり野菜で生産者農家さんを支えていたり、フェアトレードのものだったりするわけです。しかし、社会貢献したいから行くのではなく、美味しいから行くだけで、気づいたら社会貢献につながっていた。これが大事だと思います。だから、入り口はぜひ、遊び心をもって広げてほしいですね。

入口は遊び心で。ぜひ、淡海ネットワークセンターでも新しい支援の形として考え、提案していきたいと思います。

さて、こうして寄付を取り巻く状況が変化し、寄付サイトも増え、クラウドファンディングも定着したように思いますが、これからもっと変化していくと思いますか。

変化する部分と、しない部分はあると思いますが、やはり、どんどん変化はしていくと思います。寄付って言葉じゃなくて社会的投資とか…。あと、遺贈寄付は自然に増えていくでしょうね。人口減少で財産を渡す人がいない現象が現実に増えていくから、その資産をどうするっていう、今までにない課題、寄付の形が、うまれてくると思います。

こうやって、寄付のスタイルも変わってきて、新しい寄付への価値観もだんだん育ってきた。これで日本の寄付文化は醸成されていきますか。

今、日本の寄付文化が醸成されていくかどうか、ちょうど分岐点にいると思うんです。

状況は、まだまだ不安定で不安が増しているから、お金は出せない。今はまだ、新たな希望が見えない状態ですよね。この新たな希望が提示されたときに、寄付に限らず、お金が動いていくので、そこからでしょうね。

市民活動団体、経済界、自治体、支援団体、どこでもいいんですが、そこが「こういう地域にしたい」、「こんな魅力的なことをしていきたい」ということを見せることができれば、寄付とかボランティアとか、いろんな形で資源が出はじめる。そこからですね、日本の寄付文化が醸成されるかどうかは。

必要なのは、「希望あるビジョンを提示できるか」だと思います。ぜひ、この希望あるビジョンから日本の寄付文化を醸成させたいですね。

いかがでしたか。「日本の寄付文化が醸成されるかどうかは、今後にかかっている」、それは大きな課題ですが、自分たちでつくれるんだと感じて、インタビューを終えました。

山元さんの言葉は、ファンドレイザーとしての観点はもちろんのこと、実際にNPO法人の現場にいらっしゃった経験や、現在のご活躍から得られた「生きた言葉」だと思いました。この生きた言葉が、少しでもみなさんに届けば幸いです。

次号では、現場へ出向き、寄付の実情や課題点などを伺い、その声をお届けして一緒に考える機会にしたいと思います。

そして、今月は寄付月間（Giving December）。「欲しい未来へ、寄付を贈ろう。」を合言葉に毎年12月の1か月間、全国規模で行われる啓発キャンペーンです。一年の締めくくりに、この特集とともにご自分の寄付を考えてみませんか。

さて、淡海ネットワークセンターでは、「未来ファンドおうみ助成事業」として地域の課題解決に取り組むNPOや市民活動団体を支援しています。2021年度の募集については次頁を参照してください。また、通年で「未来ファンドおうみ」への寄付をお受けしています。魅力ある滋賀をつくる一歩として、ぜひお力添えをいただければ幸いです。

「未来ファンドおうみ」助成事業

「未来ファンドおうみ」は、滋賀県内で、地域や社会の課題解決や
琵琶湖等の環境保全に取り組むNPO・市民活動団体などへの支援を行っています。

2021年度募集

2020年11月20日(金)
～2021年1月15日(金)

募集要項、申請書は
右記URLよりダウンロードできます。
https://ohmi-net.com/jyosei/bosyu/

分類	基金名	対象事業	上限額
地域活動 (公益/地域活性化)	びわこ市民活動 応援基金A	・公益性の高い事業 ・地域の活性化につながる事業	30万円
地域活動 (独創的・先駆的)	びわこ市民活動 応援基金B	・地域社会の課題解決のための「より独創的・先駆的な事業」 ・上記事業の実施を目的とした「組織力の強化のための事業」	100万円
新型コロナ 困窮者支援	びわこ市民活動 応援基金C	・新型コロナウイルス感染症の影響により困難を抱える人々の支援に取り組む事業	10万円
環境保全	びわ湖の日基金	・琵琶湖等(河川や森林なども含む)の保全に関わる実践活動や調査活動	30万円
環境保全	積水化成品基金	・市民による環境保全活動の充実をめざし、年間をとおして継続的におこなわれる活動	20万円
生活者支援	笑顔あふれる コープしが基金	・身近な問題への取り組みによって、私たちのよりよい暮らしにつながる活動 (高齢者の居場所づくり、見守り活動、子育てや食育など)	10万円
多文化共生 国際交流	ナカザワＮＥＯ フレンドシップ基金	・多文化共生の地域づくりをめざした活動 (「子ども・教育」、「日本語学習支援」、「意識啓発・地域コミュニティづくり」など)	10万円
障害者支援	げんさん食育ＮＰＯ 基金	・障害のある子どもや若者たちが健やかに成長・自立していくことを食育などを通じて地域とともに応援していく活動	10万円
湖国文学	湖国文学活動応援 むらさき基金	・湖国に因む文学に関わる活動 ・湖国に根ざす文学的な活動	10万円
地元の木の活用	びわ湖源流の木遣い応援 もえぎ基金①②	・びわ湖源流の森の木を主な対象にした取り組み (「新しい産物や製品の創出」、「木を使う仕組みづくり」、「木を使う大事さの啓発」、「地元の木を活かした特色ある家づくり」、「地元の木の新しい活用方法の創案」など)	10万円 30万円

ンジ
nge に
ンジ！
で活躍する
の「いま」と「これから」
レポートします！

市民
社会福祉

アートによる発信、ありのままに生きることと、見守る力と

甲賀市甲南町、吹き抜ける風が気持ちいい高台に、今回伺った「やまなみ工房」はありました。

この「やまなみ工房」で生まれる作品は、世界で高い評価を受け、有名なミュージシャンとのコラボレーションや、話題のホテルに展示されたりと、その活躍は国内外へ大きく広がっています。そのような作品がどのように生まれるのかアトリエを見学させていただくと、どのアトリエも、その人のペースやタイミングで創作できるように配慮されていることにまず驚きます。

▲やまなみ工房のギャラリー。世界でも評価されるアートが並びます

やまなみ工房は、はじめから皆が意欲的に何かを創作する場だったのか、施設長の山下完和さんに伺いました。はじめは利用者の工賃が少しでもよくなるよう、また一般社会に適応できるよう、自分たちのシステムにあてはめようとしていたこともあったそうです。しかしある時、ひとりの利用者さんが紙切れに落書きをした、その時の満面の笑顔を見て、自分たちの理想を押し付けるのではなく、その人たちの希望を叶えてあげることが自分たちのめざすことだと気付かされ、そこから絵に興味のありそうな人には絵を、粘土が好きそうな人には粘土をと、いつでも創作できるように環境を整えてきたそうです。

▲創作活動は、それぞのスタイル、ペースで

もちろん、創作に興味がある人ばかりではないので、その人たちは併設のカフェや、公共施設の清掃の仕事をされていますが、創作活動も他の仕事も、その人のやりたいことが重視され、「その人の希望を叶える」ことが活動のベースにあり、そこにはスタッフさんと利用者さんとの深い絆を感じずにはいられませんでした。

アートを通して、偏見がなく誰もの人格が尊重され、生きやすい豊かな社会へとメッセージを発信されているやまなみ工房。ギャラリーは常時、アトリエも予約をすれば見学可能です。ぜひ、一度足を運んでみてはいかがですか？

社会福祉法人 やまなみ会・やまなみ工房

- やまなみ工房施設長/山下完和
- 法人設立/1996年
- 連絡先/滋賀県甲賀市甲南町葛木872
  TEL：0748-86-0334
  HP：http://a-yamanami.jp/

市民
地域づくり

地域の歴史も未来も西の湖と一緒に

▲「西の湖おはなしあそび」
音楽も全身で楽しむ子どもたち

西の湖あそび隊。名前から楽しそうなこの団体は、読み聞かせのサークル（にょきにょき）に参加されていた女性が自ら作る紙芝居をきっかけに生まれました。子どもの頃の生活を語った内容は、地元安土の生活を知るのにとても興味深く、次世代にも残しておきたいと聞き取りを始めたそうです。地元のおじいさんやおばあさんから聞く昔の生活習慣や、遊び、町の様子は、安土の方言もそのままに、再話集「あづちのふるさとばなし」として、西の湖あそび隊の〝安土ふるさと話発掘隊〟が担当し編集され、現在は、小学生が耳で聞いて理解し楽しめるように、動画も製作中とのことです。

そして、この再話集のなかで深くかかわっているのが、「西の湖」です。生活に、遊びに、人々の暮らしの身近にあった西の湖をもっと知ってほしい。こちらは子どもだけでなく、子育て世代にも、その魅力を自分自身の「感覚」で、価値のあるものだと感じてほしいとの思いのもと、「西の湖おはなしあそび」というワークショップが立ち上げられました。この「西の湖おはなしあそび」は、西の湖を舞台にテーマを決めて、遊びにアートや学びを取り入れたユニークなワークショップです。昨年（2019年）は、『ヨシで秘密基地を作って、ヨシを知ろう！』をテーマに、子どもたちがヨシで秘密基地を組み立てたり、自然観察をしたり、西の湖を満喫し、体験するもので、大盛況に終わったそうです。今年は新型コロナウイルス感染拡大の影響で開催が危ぶまれましたが、規模を縮小して10月25日に実施されました。団体としては、これから10年は、この「西の湖おはなしあそび」を続けていき、そのなかで西の湖や地域をクローズアップできる人材を育てていきたいと語っておられました。

▲「西の湖おはなしあそび」
ヨシを使ってみんなで作った秘密基地！

西の湖あそび隊の活動を通して育った子どもたちから、そんな人材がうまれるとうれしいですね。

2020年度「湖国文学活動応援むらさき基金」助成団体

西の湖あそび隊

- 代表/林 真澄
- 設立/2019年
- 連絡先/asobitai.info@gmail.com
  HP：https://nishinoko.localinfo.jp/

企業

社会貢献する「世間よし」企業紹介

地域に根差したインバウンドツアー、それは次世代へつなぐバトン

▲ハイキング、サイクリングのツアーでは身近な自然を感じることができます

米原市を中心としたインバウンド向けの体験型ツアー「Biwako Backroads」を主宰されている松井ライディ貴子さんは、外国人向けのwebサイト、パンフレットなどを作成する会社を経営されており、そこでインバウンドツアーのプロジェクトに関わることが増えていき、必要性を感じて、Biwako Backroadsを立ち上げられました。

その内容は、「環境負荷を意識」、「地域の伝統を守る」、「日本の普通の街を感じてもらう」をコンセプトに、サイクリングやハイキング、地元の工芸品作りの体験など、地域の自然や暮らし、文化を体験できるものです。これらの魅力は、長いアメリカ生活を終え、この地に帰ってきたときに改めて気付いたとのことです。

また、松井さんはこのツアーを通して、これらを次世代へつなぐとともに、若い人たちにとって自分の力を発揮し、活躍できる場にしたいとも考えておられます。

「職種、地域は関係なく、いろんな人が集まり、この地域の魅力をその人の魅力で伝える。それには、英語力はもちろんですが、何より大切なのは、地域の人とのコミュニケーションと地域を愛する心と、ツアー客に喜んでいただける工夫や心意気です」と、松井さんは話してくださいました。働き方が大きく変わってきている昨今、松井さんの想いに共感し、一緒に盛り上げたいという人がたくさん現れ、新しいプラットフォームになるのではないでしょうか。

さて、この有名観光地では味わえない、ありのままの地域の暮らしや自然、文化に触れる体験型ツアー、地元に住む私たちにこそ、新しい発見がありそうです。インバウンドだけでなく、参加してみたいものですね。

▲地域の人たちとのコミュケーションはこのツアーならではこそ!

Biwako Backroads

- 代表／松井ライディ貴子
- 設立／2019年
- 連絡先／滋賀県米原市下多良55-4
  TEL：0749-53-2119
  HP：https://www.biwakobackroads.com/

市民

子育て支援

お母さんも一人の女性。エールを送り続けます！

▲赤ちゃんと一緒に参加できるイベントもたくさんあります

「ママパスポート」は現在、守山市を中心に、県内で8か所、県外に2か所と組織が広がる子育てママの支援団体です。数ある同様の支援団体のなかでも、確実に活動とネットワークを広げ、ますますチャレンジを続けるママパスポートコミュニティの代表、廣瀬香織さんにお話を伺いました。

廣瀬さんは、もともと情報誌に携わっていた経験と、あわせて自分の住む地域、守山を見直し、時間をかけて盛り上げてみたいとの思いがあり、独立と同時に守山から発信する子育て情報誌「ママパスポート」をスタートされました。当時、ご自身も子育ての真っ最中で、「きっと同じような思いを持つ人がいるはず」と活動を続けていると、他の地域から同じ思いの人が一人、二人と現れてきたそうです。そこで、情報誌を作ってきた経験から、ベースは共有しながらも、地域のことは地域に任せ、その特色を活かす、いわば守山をモデルにしたフランチャイズのような仕組みをつくられました。これにより今のように滋賀県下および県外にも、活動が広がるようになり、また、いち早く情報提供にSNSを取り入れたことで、忙しいお母さんたちへ「ママパスポート」が一気に広がった要因になったそうです。

▲子育て中のお母さん、働くママに寄り添い、活動を広げます

このように新しいことをいち早く取り入れ、子育てママの強い味方、ママパスポートさんですが、今後の展開をお聞きすると、滋賀県下約3万人へのアンケートをもとに、滋賀県が策定した、子どもの笑顔を増やすための行動様式「すまいる・あくしょん」に協力し、新たな取り組みとして展開していくとのことです。このコロナ禍で、マイナス面ばかりがクローズアップされるなか、子どもたちが生き生きと笑顔で過ごしてもらえるよう、7つの「すまいる・あくしょん」はママパスポートさんを通じ、これから滋賀県にどんどん広がることでしょう。

一般社団法人ママパスポートコミュニティ

- 代表／廣瀬香織
- 法人設立／2020年
- 連絡先／滋賀県守山市守山一丁目8-7 アートスペース絆 内
  TEL：077-598-6470
  HP：https://mompass.jp/

Changeにチャレンジ！ 応援BOX

募集

2021年度未来ファンドおうみ助成事業の募集がはじまりました！

淡海ネットワークセンターでは、地域の課題解決に取り組むNPOや市民活動団体への助成事業を行っています。

【応募受付期間】2020年11月20日（金）～2021年1月15日（金） 17時必着
【助成対象事業】本紙5頁をご参照ください。
【募集案内・申請書】下記URL、右記QRよりダウンロードできます。
https://ohmi-net.com/jyosei/bosyu/
【説明会】募集にかかる説明会を開催いたします。
多くの方のご参加・ご応募をお待ちしています。※申込要

大　津	12月 5日（土）	10:30～12:00	淡海ネットワークセンター
米　原	12月10日（木）	10:30～12:00	米原公民館3A研修室
守　山	12月12日（土）	10:00～11:30	守山市民交流センター1階交流室
オンライン	12月16日（水）	14:00～15:30	（ZOOM）
オンライン	12月19日（土）	14:00～15:30	（ZOOM）

【申込み・問合せ】淡海ネットワークセンター（佐藤）　TEL.077-524-8440

お知らせ

―市民活動フォーラム2020―「Withコロナ時代の新しい市民活動」～コロナ禍のピンチをチャンスに変える～

◇日　　時：2020年12月19日（土）10:00～12:00
◇会 議 形 態：オンライン（ZOOM）
◇事例発表者：
大平 正道さん（地域づくりアドバイザー）「コロナ禍における市民活動のあり方」
谷口 久美子さん（NPO法人CASN理事長）「子どもたちの声に耳を傾けながら・・・」
岩原 勇気さん（NPO法人プラフアート理事長）「コロナを温めて、本質を知る」
◇参加対象者：NPO、コロナ禍で活動に困っている方、今後の活動の展望を考えている方 など

お知らせ

【セミナー案内】「社会的インパクト評価」オンラインセミナー

今回は『評価を楽しもう』をコンセプトに、「活動の視点を変えてみたら、こんな価値発見!」といった、主体的な実践方法を学びます。

◇日　　時：2021年1月28日（木）　13:30～16:00
◇講　　師：一般社団法人インパクト・マネジメント・ラボ 千葉直紀さん、鎌田淳さん
◇方　　法：オンラインセミナー（Zoom）　◇参加費：無料
◇申込方法：淡海ネットワークセンター
ホームページ内セミナー申し込みフォームにて
◇問合せ先：淡海ネットワークセンター　中川　北川

編集後記

■特集「寄付」は、今後も様々な角度から取り上げ、今回を含め3回に渡って連載でお届けする予定です。最後まで読んでくださるとうれしいです。今回も取材先での、みなさんの活動にとても刺激を受けました。取材を通して新しい世界を教えていただいています。これからも取材のご協力、よろしくお願いします！（辻ゆかり）

お礼

●未来ファンドおうみへご寄付ありがとうございます。

貴重なご寄付を賜りました皆様方に心より感謝申し上げます。
この支援金は、滋賀の市民社会を良くしようとがんばっておられる市民活動団体へ助成し、皆様のお気持ちを伝えながら、おたがいさまがつながり、活きる地域を創るために活用させていただきます。（50音順）

・一般社団法人 比良里山クラブ様　「びわ湖の日基金」
・近江通商株式会社様　「びわ湖の日基金」
・株式会社ナカザワ様　「ナカザワNEOフレンドシップ基金」
・株式会社ロハス長浜様　「びわ湖の日基金」
・元三フード株式会社様　「げんさん食育NPO基金」
・「滋賀自然環境保全・学習ネットワーク」を考える有志様　「びわ湖の日基金」
・生活協同組合コープしが様　「笑顔あふれるコープしが基金」
・積水化成品工業株式会社様　「積水化成品基金」
・第6回びわ湖チャリティー100km歩行大会実行委員会様　「びわ湖の日基金」
・有限会社　豆藤様　「びわ湖の日基金」
・匿名　「びわ湖源流の木遣い応援もえぎ基金」
・匿名　「湖国文学活動応援むらさき基金」

●下記の皆様から賛助会員にご入会いただきました。厚く御礼申し上げます。（敬称略、50音順）

<法人・団体会員>
甲賀高分子株式会社・滋賀ダイハツ販売株式会社・
税理士法人横井会計・琵琶湖汽船株式会社

<個人会員>
板倉 成子・遠藤 惠子・岡治 利和・勝身 真理子・
川辺 惠子・北村 裕明・木村 健治・櫻田 満・里西 薫・澤 孝彦・
菅江 克弘・諏訪 直美・竹村 健・辻 博子・寺本 勉・中井 善寿・
長澤 嘉德・中野 雅之・中村 淳子・広実 照美・福永 忠克・
藤井 絢子・堀 茂樹・村岡 孝浩・村西 耕爾・目片 佳子・森 良和・
森口 行雄・匿名40名

日本政策金融公庫国民生活事業はみなさまの身近な政策金融機関です。

・NPO法人のみなさまもご利用いただけます。
・新たに事業を始める方にもご利用いただけます。
・経営に役立つ情報をご用意しています。

新たに事業を始められる方へ　新規開業ローン
中小企業・小規模事業者のみなさまへ　国の事業ローン
お子さまの教育資金を必要とされる方へ　国の教育ローン

お問い合わせは
日本政策金融公庫 国民生活事業
大津支店　国民生活事業　TEL077-524-1656
彦根支店　国民生活事業　TEL0749-24-0201
お気軽にご相談ください。
日本公庫　検索

公益財団法人淡海文化振興財団　「未来ファンドおうみ」助成事業

未来ファンドおうみ

滋賀県内で、地域や社会の課題解決や琵琶湖等の環境保全に取り組むNPO・市民団体の活動に助成を行います。
詳しくは下記ホームページをご覧ください。2021年度募集：11月20日（金）～2021年1月15日（金）

ホームページ https://ohmi-net.com/jyosei/bosyu/　TEL 077-524-8440

VEGETABLE OIL INK　この印刷物は大豆油インキを包含した植物油インキを使用しています。